

平成21年度第2回新宿区外部評価委員会会議要旨

<出席者>

外部評価委員（13名）

卯月会長、名和田副会長、岡本委員（第2部会長）、入江委員、大塚委員、川俣委員、小菅委員、須貝委員、富井委員、中原委員、芳賀委員、山村委員、渡辺委員

事務局（4名）

猿橋総合政策部長、木内行政管理課長、担当1名

<場所>

区役所第2分庁舎分館 1階 会議室

<開会>

1 評価方針について

【会長】

それでは、定刻になりましたので、ただ今より平成21年度の第2回新宿区外部評価委員会を始めたいと思います。

本日は、最初に新宿区における協働の考え方というテーマについて、地域文化部地域調整課の加賀美課長にお話をお伺いし、その後、若干、質疑応答を含めて議論するという予定になっております。

その後、今後の評価対象の抽出、評価方法について、委員の皆さんと議論するというところで12時閉会を予定しております。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、貴重な時間ですので早速、加賀美課長よろしくお願ひします。

* 勉強会 「新宿区における協働の考え方」について

講師 地域文化部地域調整課長 加賀美 秋彦

主な講義内容

- ・新宿区における協働事業の位置付け
- ・新宿区・地域と協働の推進計画
- ・新宿区における協働推進事業
- ・協働推進事業の現状と課題

主な質疑

- ・行政側が変わっていないというところが散見される。
- ・NPOと行政との協働事業がつぶれた事例がある。失敗を次に生かしてもらいたい。
- ・行政担当者の転任が多過ぎる。
- ・行政と民間で優先順位の意識が違う。各課の横断的連携が不足。

- ・協働事業提案制度の第三者評価の方法や評価の基準は。
- ・NPOやボランティアグループが育たない理由を検証していく必要がある。
- ・育成しなければならないNPOをどう設定して、どういう仕組みをつくっていくか、イメージを深めないといけない。
- ・協働事業を行う中で、団体も力をつけている。
- ・協働推進事業・一般事業に、区民の参加、協働の考え方がどれだけ入っているのか。
- ・既に行政が行っている全ての事業への参画に踏み込まずに、協働推進の担当課が実施している一部の協働推進事業を重点的に実施するのは如何か。

【会長】

どうもありがとうございました。

それでは、評価方針について話し合うこととします。

今回勉強会をいたしまして、やる気になれば6月にもう一回ぐらい勉強会をできるということだったんですが、ご意見はありますか。

【委員】

勉強会になるかどうかわからないんですけども、この資料1の「内部評価シート」を見せていただいて、どういう視点で評価しているんだろうかと思ったんです。昨年度、一昨年度もそうだったんですけど、何でこれでAがつくのとか、何でBなのというのもあります。目標を低くすれば必ずAになっちゃうわけですよね。その辺の内部の事業評価の手法を学んでおかないと、外部評価はできないかなと実は昨年も思ったことなんです。

それは、もしかすると、予算なり最初の事業をさせるときの目標値の問題になっていくと思いますけれども、その辺を知りたいと考えています。

【会長】

今回は、かなり数値化されているんですよね。でも、勉強会としては、逆に外から誰かをお呼びするより、こういう基礎的な資料のつくられ方みたいなことを、時間があるなら勉強したほうがいいんじゃないかというご指摘ですか。

【委員】

ええ、個人的にはちょっと知りたいと思っています。

【会長】

それも一理あるかもしれないですね。

6月の勉強会については、後半にもう一度議題とすることにします。

まず今年度の内部評価について、評価方針とか、今のご指摘についても説明をしていただきましょう。

【事務局】

それでは、資料1の内部評価シートについて、昨年との比較でご説明いたします。

今回の評価は、事業評価と個別目標についての評価になります。施策的に上位の個別目標が

総合計画から持ってきているため、流れとしては個別目標があって事業評価というのが全体の流れです。しかしながら、実際の評価の事務作業としては、まず事務事業を評価した上で、それを総合的に取りまとめて個別目標に照らして、事業の指標を達成できているかという形で見ていきます。そこで、お手持ちの資料は先に事業評価シートの方をお示ししております。

この事業評価シートの「指標」については、「新宿区第一次実行計画」139ページ以降で、計画事業ごとに、平成23年度の計画最終年度の目標値というものを設定しております。それを事業評価シートの左のページに、「事業の指標」という形で書き込んでいき、それが目標としてどう達成されているかを記入していきます。第一次実行計画を立てたときに、その計画年の最終年度にはここまで持っていくという目標値を決定していますので、それをこちらに書き込むという部分が、昨年までとは違った形になっております。

右ページの評価の部分につきましては、昨年は総合評価の欄のところに、内部評価での4つの視点を踏まえて、それぞれどうなったかを文章で書くようになっていたのですが、今回それぞれ4つの視点について、その視点から見たときに達成されているかどうかというのを、まずきちんと示した上で、それをどう評価したのかという理由を書き込んでもらうということです。

その4つの視点を踏まえた上で、総合評価として、計画事業が計画どおりに動いているのか、あるいは当初予定したほどには進んでいないのか、あるいは計画以上に進んでいるのかということも3段階で評価をし、その理由も書いてもらうという形で、より分かりやすくしました。

大きく変えたのが、その次の「進捗状況と今後の取り組み方針」という部分です。この部分については、20年度に事業を実施するに当たって、そのときにどういう現状認識で、それに対してどう取り組む考え方を持っていたのかという、状況認識と改革方針をきちんと明示しているということですので。これは、昨年から継続している事業につきましては、昨年の行政評価で、19年度の事業の評価を行い、課題を整理して、20年度はどうかという改革方針を書いていますので、継続している事業については、昨年の評価が部分がここに入ってきます。それに対して、20年度から新たに計画化した事業については、最初の現状認識と、それにどう取り組むかという方針を示した上で、そこにどう取り組んできたかという流れを、「進捗状況・今後の取り組み方針」で見られるような形に整理したということでございます。

続きまして、その次のページが個別目標評価シートになります。これにつきましては、左側のページで基本目標、個別目標、めざすまちの姿、課題、指標等について、総合計画で定めた内容を書き込んだ上で、それに対する達成状況をチェックしていきます。右側のページの評価につきましては、先ほどの事業評価の部分と同じように4つの視点に沿って、それがそれぞれできているかどうか、その理由を書いた上で整理します。

進捗状況・今後の取り組み方針につきましても、先ほどの事業評価と同じような流れで、それをより上位の部分の個別目標ごとに整理をしてもらうという形です。この個別目標評価シートの評価が妥当かどうか、個別目標を構成する計画事業の事業名、総合評価と方向性を転記して、一覧でどう評価したのかを把握するような形になっています。

個別目標と事業評価シートについては、一番大きく変えたのが、「進捗状況・今後の取り組み方針」のところで、事業あるいは個別目標の取り組みに対して、その流れをより明確に整理した、というところがございます。

その他に、補助事業評価シートがございます。これは区の補助事業について、昨年も内部評価に併せて補助事業の評価を行っております。これについては特に書式は変えておりません。

評価シートの変更については、以上でございます。

【会長】

ありがとうございます。

細かいことを聞きますが、個別目標評価シートの右ページの下のところに、計画事業名と総合評価、方向性が一覧になっていますが、それをどうやって書くのでしょうか。

【事務局】

計画以上か、計画どおりか、順調でないか、という記載になります。

方向性については、継続とか、改善とか、縮小、という形で書いていくことになります。

【委員】

すぐ見やすくなったと思いますので、先ほど勉強会は要らないという感じがしたんですけども、ただ、評価の理由という欄は、例えば達成度が低いとか、順調に進んでいないといったときに、その理由は今までのを見ると原因ではなくて、何かできなかったみたいな話だけで終わっていたと思うんですね。なぜできなかったのかというのを、この評価の理由の中に入れていただけないかと思います。

つまり、原因がないと改革できないと思うんです。この欄は「理由」となっているんですけど、理由の中に原因を含むみたいなのも書いていただくと、そういう原因を取り除くにはどうしたらいいか、それを取り除けば、きちんとした成果が上がるのかというふうに展開できると思うんですけども、いかがでしょうか。

【事務局】

その点については、そういうところをきちんと説明して認識してもらう必要があると思います。例えば目標100%に対して、到達率が80%だから「達成度が低い」と書かれても、それは別に評価の理由にはなりませんので、そこまで踏み込んだ形で認識してもらうよう指導していきたいと考えております。

【委員】

よろしくをお願いします。

【会長】

他にこのシートについてご質問はありますか。

【委員】

進捗状況・今後の取り組み方針というところで、昨年の事業評価の中で、状況認識、改革方針は既に書かれていたのでしょうか。それがないと、今から遡って20年度の改革方針を書かないといけないことになり、つながらないということになってしまいます。前回のときに、この

2つがあったんですか、ということですが。

【事務局】

表現としてはないんですけども、19年度から第一次実施計画に続いている事業につきましては、昨年の行政評価の中の評価結果のところ、どういう課題があるか、それを来年どうしていくか方向性は出しています。

【委員】

それを書くということですね。

【事務局】

はい。新しい事業については、計画事業を立てるときに、どういう現状認識であって、どういう対応をとっていくのかということを整理していますので、それをここに書くということです。

【委員】

外部評価も含めた認識をしてくださいということなんじゃないかな。それに対して、どういう改革方針をつくったのか。20年度の実績については、まだ内部での評価だけを書いて、来年には外部評価も入れたものを認識して改革方針を立てなさい、というように、ここはリンクしながらいっているんですね。

【事務局】

はい。

【委員】

すばらしいですね。

【事務局】

今年度評価の課題と改革方針が、来年になると上の欄に上がって前年度の状況認識と改革方針になります。

【委員】

これは外部評価も入れて、また認識される場合もある。それはすごいですね。だから前年度の内部評価だけでなく、内部評価が終わって外部評価が出たら、両方認識して改革方針を決めてくださいということですね。

【会長】

それだけきちんと書いていただいたら、我々はやりやすくなるんじゃないですか。

【委員】

このシートの書き方について、担当者への注意事項はあるんですか。

【事務局】

事務説明会の資料がございます。

【委員】

それも見てみたいと思ったんですが。

【会長】

次回、お願いできますか。

残った時間で、また議論に戻るのは結構ですので、先に資料2「エントリーカード集約一覧」、資料3「外部評価シート様式」、資料4「区の施策・事業の全体像」について説明していただいでよろしいですか。

【事務局】

資料2は、前回お配りしたものに全委員分が入っていなかったもので、最終的な状態で、今回改めてお配りしたものでございます。

次の資料3については、前回お配りした資料の、他区の行政評価取組状況についての調査結果の説明の中で、外部評価の様式が定めてあると回答した区があって、その様式はどんなものか、というご意見がありましたので、事務局で確認したものををご用意いたしました。

これは、特に評価シートという形ではなくて、昨年の新宿区のように内部評価の意見があって、それに対して外部評価の意見はどうなんでしょうかという形式になっているものが多いようです。例えば板橋区のところの163、164ページに、それぞれの事業について外部評価結果で「所見・改善点等」と書いてあるとというものがございます。

一番評価シートらしいものは、練馬区で、48、49ページが外部評価の評価シートという形になってございます。

一番最後は足立区でございますけれども、足立区につきましては表紙をめくって178、179ページがあって、179ページの中段の右の枠、「区民評価委員会の評価」という形で、やはり区の内部評価の結果と対応するような形で取り組んで整理するというような形になっております。

練馬区が一番「評価シート」という意味で近いのかなと思っています。個々の区で具体的に内部的なチェックをするときにどういうシートがあるかというのは、確認していません。

資料3につきましては、以上でございます。

資料4につきましては、前回の委員会で第一次実行計画の計画事業の枝事業に関して何か資料を、というご意見がございました。それで、実行計画の青い冊子の157ページ「区の施策・事業の全体像」の中から計画事業を抜き出しまして、事業の概要等をわかるようにした上で、139ページの指標、23年度の達成目標を書き出した資料でございます。

本日、用意した資料は、以上でございます。

【会長】

ありがとうございます。

今の説明を聞いて、ご不明の点はありますか。

僕は、他区その事例というのは、とても参考になるんじゃないかなと思います。先ほどの回りの勉強会という話との関連もあるんですが、どなたか講師を呼んで勉強会というよりは、むしろ昨年あまり時間がなくてできなかったことで、我々の外部評価の最終的な体裁を読みやすいものにしたい。区民の方や行政の担当者の方にも読んでいただいて、次につながるような形にしたいという考えがあります。他区の実例を、次回までに読んできていただいて、最終的に我々がどういう形式、どういう表にしたらいいかということをお話し合いたいと思っておりますが

かがでしょうか。

板橋区は大きな太い文字で改善、継続とか、こう書いてあって、読みやすいという話ではそういうのも悪くない。むしろそういう、ビジュアルなものも含めて、外部評価の体裁、形みたいなものを、時間があれば共通認識を持っておいてから、それぞれの3つの部会に分かれたほうがいいかなという気がします。だから外からの講師をお呼びしないで、これを読み込んでもらって、最終的なアウトプットについてのイメージを議論してから、残った時間で3つの部会に分かれてやってみるという形で、いわゆる勉強会じゃなく、そういうのはどうですか。

【委員】

前の実施計画で、いわゆる冠の協働推進事業ではなくて、これは協働という分類に入りますよというようなものが事業ごとに書いてあるのを私は見たんですが。

各事業としてこれは協働の扱いなんだみたいな、何かそういうのを見たことがあります。

【会長】

協働推進の担当課ができたり、そういう指定をしたりするということは悪いことじゃないんだけど、逆にそうじゃないものは全然協働は関係なくていいんだというような逆の効果も生まれてしまうんですね。だから、すべての事業が協働なんだと課長は言っているかもしれないけれども、そういうふうにして指定してしまうと、指定していないところは何なんだとか、指定したところは、どこまで協働推進課が責任を持つんだというようなことは、僕はよくわかりません。

【委員】

本来、おっしゃるとおりこの事業は協働しますけど他はしないというのでは困るわけですね。その辺を区としては、どういうふうを考えていて、例えば事業でやるんだとしたら、区全体を協働という一つの考え方でまとめるんだとしたら、それもこちらから点検というか、言っている部分なのかなとも思いますね。

【会長】

協働に関しては、協働推進の担当課がお金も担保してきちっと評価もするのものと、協働事業として位置づけている104事業と、それ以外のものの3つあるということではないんですか。

【事務局】

先程の「新宿区における協働の考え方」の講義の中で地域調整課長が言いましたのは、予算上の振り分けの考え方なんです。というのは、それはどこから出ているかという話なんです。要は区長がマニフェストでご自分の政策を打ったときに、私は大きな柱として協働事業をやりたいということをうたっていますね。そのときに協働の考え方というのは、いわゆる協働事業としてみなすものと、基礎の考え方として協働的な考え方を取り入れていこうというものと、いくつかのバリエーションがあります。それを予算上の振り分けの中でどう受けとめていくかというのが実はありまして、その1つの大きな考え方が、先ほどの地域調整課がやっている協働事業でお金をつけようというのが1つの考え方ですね。

もう一つは、バリエーションとして事業遂行上の考え方の中に、協働という考え方が入れら

れるかどうかですね。それを予算上の振り分けで、現下に確認しながら、それが協働だと位置づけているというものです。単純に言えば、それは予算上の柱としての振り分けなんですね。

【会長】

事業の推進の仕方などについて協働推進の担当課が関与しているわけではないでしょう。

【事務局】

関与ではないです。ですから、そこを厳密に、その辺を議論してどうするかという中身はあるんです。協働という視点を入れる必要があるとすれば。

【会長】

だとしたら、ここに我々の評価基準では、その104事業については、協働しているかという視点を入れなきゃいけないかもしれないですね。あるいはサービスと負担の担い手という項目があるから、その項目の中で104の事業については、より厳しくというか、きちんとというか、評価したほうがいいのかもしいかなと思います。今、委員が言ったように、やっているという、そのメッセージだけでなく、実態も。そうじゃないですか。

【委員】

確かに、この委員会で、協働という視点で行われている事業の評価をどうしたらいいのかということで、わかりやすく言うと、その事業については協働を掲げて財務から予算を取った以上、協働の視点がちゃんと貫かれているかという評価をしないといけないと思いますので、どの事業がそれが知っておく必要がありますよね。

それから、他区の事例はなかなか私も興味深いなと思ったんです。ちょっと気になったのは、どこの区だったか、外部評価委員の構成で、学識経験者5人とか公募委員1人というのがあるって、ここの構成とかなり違うんですね。だから、やり方とか発想とか、いろいろ違うかと思いますが、我々のような構成にふさわしい考え方とかシートがあると思うんですね。いただいた資料は、その委員会の構成が書いてあるものと書いてないものとがどうもあるようなので、ちょっとお手数ですけども、そこのところも調べていただければと思います。

【会長】

前回の、専門家は何人とかありましたよね。他区のいいところを少し学ぶというのはありますよね。

【委員】

協働の名目で予算を取った事業には、マークをつけておいてもらおうと、それを含めた評価が逆にできるわけですね。

【会長】

それはできますね。

【事務局】

それは次回、資料に入れさせていただきます。

【会長】

僕は、今年の評価は協働という新しい視点が出てきたので、とても重要だと思っているんで

すけれども、これに匹敵するような何かキーワードというのはあるんですか。

【委員】

事業の予算を取るときに、協働のくくりを入れない事業には、別の利用があるんでしょうか。くくりが入っていないのと、入っているのといった事業があるわけでしょう。

【事務局】

特に予算を編成しているときに、これが協働事業だからこの事業に是非予算をつけろというような趣旨ではないです。

【委員】

今の議論の雰囲気だと、すべてが協働だという感じですがすけれども、でも冷静に考えると、例えば地域福祉計画なんかでは、主として行政がやること、主として住民自身が取り組むこと、両者が協働して取り組むことと、3つに分けて整理したりしています。どんなに協働が基本精神だと言っても、行政が直営でがっちりやるような事業って、やっぱりあるというふうに考えませんか。

【会長】

僕も全く同じ考えです。ところが協働という言葉のオブラートにくるんでしまって、行政が自らやらなきゃいけない責任を放棄している部分があると僕は思うので、この事業は変に区民だ区民だなんて言わないで、ちゃんともっと行政がやれと、防災の話もそうかもしれないが、協働という考え方で今言われたように整理をないといけない。協働という言葉に流されて、結局何で達成できなかったのかとなったときに、区民の協力が得られなかったからできなかったみたいなことでは、それは違うでしょうというつもりで考えているんですけどね。

厳しく持っていけばいいのかもしれないです。だからそのときに協働という言葉を使っているのかどうかよくわからないんですが。

では、今回はもし異論がなければ、別な講師を呼ぶというよりは、他区の事例とか、それから協働の104事業がわかるような資料を出していただいて、最終的な外部評価のアウトプットの体裁とか、あるいは評価のこれからのやり方、方法、プロセスについてさらに議論するということでよろしいですか。

(「はい」の声あり)

【会長】

ありがとうございます。

そうすると、できればもうそろそろ半分部会に分かれた作業、半分全体議論みたいな感じにしないと次に結びつかないですね。だから全体会をやった後、その協働事業を見ながら、大中小の項目の中でどんな感じになるかということを議論して、それで意見を言っていたらうえて、前回の話ですと、全部というのも変な言い方だけれども、密度は少し異なるけれども、一応包括的に扱うんだということもよろしいですか。それを前提に、各部会で少しやり方を検討していくということでもよろしいでしょうか。そうすると、今回はいつぐらいですか。

【委員】

25日あたり、いかがですか。

【会長】

25の木曜日、午前中10時から12時ということで、場所はここになりますか。

【事務局】

これから会場を確保いたします。

【会長】

7月以降の予定は入れなくていいんですか。

【事務局】

去年は部会に分かれてヒアリングを部会ごとに行っていますね。

【会長】

6月には7月以降の予定もそれぞれ部会で決めていただきたいと思います。

【事務局】

7月の終わりに内部評価の公表を予定しておりますので、その説明を。

去年は7月ぎりぎりまで、部会ごとにどこにヒアリングするか、どういう項目があるかなどを具体的に検討していただいて、8月にヒアリングを実施したり、実際に現地に行ったりしたうえで、9月いっぱいまでに結果を取りまとめていただきました。

【会長】

もう一度7月に各部会で1回ぐらいやって、それで7月後半、内部評価が出てきて、8月にもう一回やるということですね。

【事務局】

内部評価について、部会ごとにテーマが決まっていれば、こちらのほうで部会ごとにその部分をご説明させていただくような形です。

【会長】

わかりました。それでは、7月の日程、8月の日程を決めていただいて、その辺も次回の全体会のときに確認して分かれましょうか。

ほかに何か皆さんのほうからございますか。

では、今日は少し時間より早くなりましたが、これで終了します。ありがとうございました。

閉会